

入門レベルに関するフランスでの取り組み： 成人移民に対するフランス語教育に注目して

2022年7月15日

近藤裕美子

1. 社会的背景
2. レベル:Pre-A1とA1.1
3. フランス語能力に関する公的試験:DILF
4. A1.1レベルの教材
5. 教師研修
6. まとめ

1. 社会的背景：フランスの移民動向

- ・**移民人口(2019年)**:フランス総人口**6,700万人**のうち、移民人口(外国生まれのフランス国籍取得者+外国生まれの外国籍の者)は**670万人** 人口比 7.3%(2000年)→10%(2019年)

・出身国の変遷

19世紀後半ー20世紀前半	イタリア、スペイン等隣国
第二次世界大戦後ー1974年	北アフリカ マグレブ3国(モロッコ、チュニジア、アルジェリア)
1960年代-1980年	ポルトガル
1975年以降	マグレブ3国以外のアフリカ、トルコ等からの移民
2000年以降	移民増加傾向 ← 留学生の増加、難民受け入れ、EUの東方拡大、 2006年新移民法を契機とした経済移民の流入

アルファベットを使用しない言語の母語話者増

2-1 レベルについて：Pre-A1

1.CEFR補遺版での説明 (仏語版p24)

- ・A1レベルまでの途中
- ・CEFR (2001) の3.5節の冒頭で言及
- ・例示的能力記述文(Can-do記述文)が新しく追加(オンラインでの相互行為を含む)

2.Pre-A1のCan-do記述文 (欧州評議会ホームページ CEFR Descriptors (serchable))

- ・1832のCan-do記述文のうちの46。
- ・コミュニケーション言語活動とストラテジーのスケール(カテゴリー/項目)に集中。(特に受容活動と相互行為)
- ・A1レベルとの違い(キーワード)
:絵や写真、ジェスチャー、定型表現

Pre-A1の能力記述文

コミュニケーション言語活動	受容	受容活動	聞く	5	14
			視聴覚	1	
			読む	7	
		受容のストラテジー		1	
	産出	産出活動	話す	3	5
			書く	1	
		産出のストラテジー		1	
	相互行為 (やりとり)	相互行為活動	話す	15	21
			書く	3	
			オンライン	3	
仲介	仲介活動	テキストの仲介	3	3	
コミュニケーション言語能力	言語能力		1	3	
	語用能力		2		

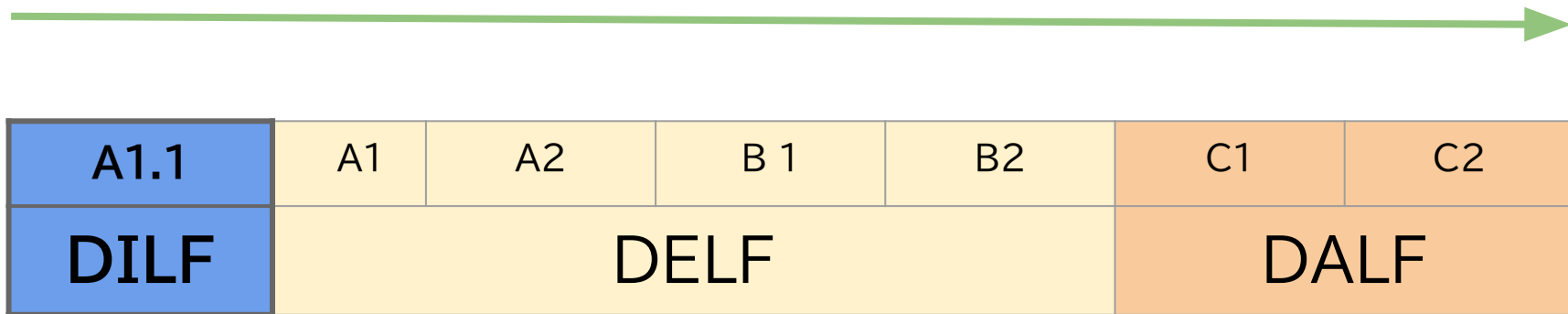
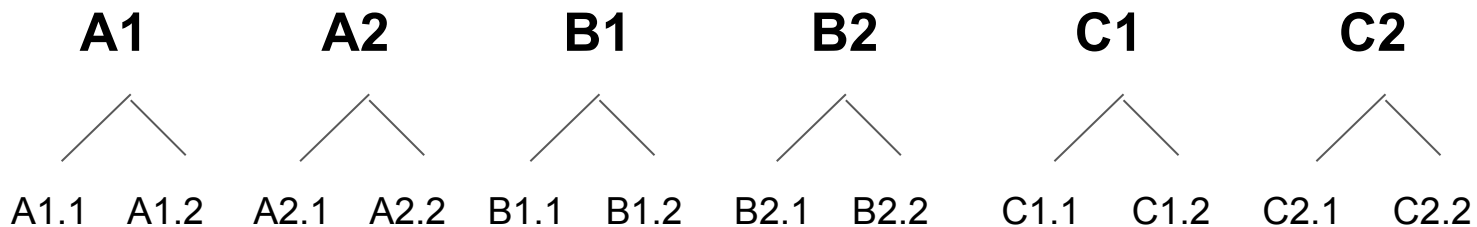
2-2 レベルについて : A1.1

書籍 《Niveau A1.1 pour le français
Référentiel et Certification pour les premiers acquis en français 》

- ・CEFRをフランス語の文脈に適応させたReference Level Descriptors(RLD)の一つ
- ・2005年発行
- ・人口移住局(現在の「内務省在フランス外国人総局」)の要請で開発
- ・対象:フランス語の初学者、移民
- ・背景:フランス語の習得が必要な移民の増加
(p15) 1995年時点で140万人の移民(EU圏以外からの入国者で5年未満)を除く)がフランス語学習のニーズを有していた。(移民の34%は読み書きや会話が苦手、46%は正しく書けない)
- ・構成:①A1.1レベルについて
②学校教育をほとんど受けていない人対象の読み書きに関する能力記述文
③CEFRのA1.1レベルの国家が認定した資格:**DILF**

2-3 A1.1 と Pre-A1

CEFR(2001) p32-33



2-3 A1.1 と Pre-A1

Pre-A1:CEFR補遺版 (仏語版p24) → **CEFR(2001) 第3章5節** (日本語版 吉島ほか(2014) p27)

* 青字:発表者変更

この段階に達する前には、学習者が限られた幅の言語を効果的に使い、当該学習者の需要に欠かせない作業課題をこなすという段階があるかもしれない。(中略)それらは **A1 レベルで定義されているものの前提**と考えられるであろう。あるコンテキストでは、例えば、若い学習者には、「道しるべ」のようなものを細かく立ててやることも検討に値するかもしれない。次の能力記述文は、簡単で一般的な作業課題を示したものであるが、**A1 レベル以下の尺度であり、初めて外国語を学習する人にとっては有意義な目標設定**になりうるであろう。

- ・簡単な語句を発することができるが、その際指し示すなどの身振りで言語による指示を補強することができる。
- ・日、時間、日付など尋ねたり、言ったりできる。
- ・簡単な挨拶の表現を使える。
- ・「はい、いいえ、すみません、どうぞ、ありがとう、ごめんなさい」が言える。
- ・個人的情報、名前、住所、国籍、未婚・既婚などを、簡単な書式に書き込むことができる。
- ・短くて単純な葉書が書ける。

2-4 A1.1の能力記述(全体的尺度)

A1.1

非常に頻繁なコミュニケーション場面で使われる日常的な表現や社会的な場面で具体的なニーズを満たすための非常に基本的なフレーズを理解し、これらの表現のいくつかを使うことができる。

国籍、年齢、身分*、職業、居住地などに関する質問に対して、答えることができる。また、全く知らない相手に対してや日常のサービス環境において、これらの事柄について質問したり、答えたりすることができる。(*マダム、ムッシューなど)

相手がゆっくり、はっきりと話し、協力的で共感的であれば、母語や他の習得言語を含む簡単な1、2語の表現を使って、少なくとも部分的に日常的な交流に参加することができる。

Référentiel p32

A1

具体的欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。

自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問したり、答えたりできる。

もし相手がゆっくりはっきりと話して、助け舟を出してくれるなら簡単なやりとりをすることができる。

CEFR(2001) 吉島訳 p25

*青字:発表者変更

より詳細で、具体的な表現を追加し、「できること」を特定

3-1 DILF (Diplôme initial de langue française)

A1.1	A1	A2	B 1	B2	C1	C2
DILF	DELF Diplôme d'études en langue française				DALF Diplôme approfondi de langue française	

DELF/DALF : 1985年～、2005年に改訂

- ・2006年開発(国民教育省、高等教育・研究省)
- ・フランス国民教育省の認定資格
- ・開発/運営機関 Centre international d'études pédagogiques (国際教育研究センター)
*現在、France Éducation international(フランス国際教育)
- ・これまでの試験の枠組みの中に組み込む → 一貫性
- ・目的:フランス語への最初のコンタクト。動機づけのため。
(A1レベルを直接目指すのが困難な人に、A1までの途中の学習を価値づける)

2022年現在の実施状況

- ・フランス領土でのみ実施
- ・試験センター 100 箇所; フランス本土(97)、海外県(3)
- ・年6回実施

3-2 DILFの試験内容

試験時間:1時間15分。合格基準 :50%以上

試験科目と配点		
	DELF DALF	DILF
聞く	25点	35点
読む	25点	15点
話す	25点	35点
書く	25点	15点

「聞く」「話す」試験の
比重が高い

試験内容	
聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・公共のアナウンスを理解する ・簡単な指示を理解する ・数字に関する情報や時間を理解する 等
読む	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な指示を理解する ・数字に関する情報を理解する ・簡単な文章の種類(掲示、メモ等)や機能を把握する 等
話す	<ul style="list-style-type: none"> ・値段を聞いたり答えたりする ・人を紹介する、場所を説明する ・要求を表す、予約を取る 等
書く	<ul style="list-style-type: none"> ・住所や電話番号を書き写す ・数字、値段、日付を書き留める ・フォームに記入する 等

DILF 試験問題サンプル (France Éducation international ホームページよりダウンロード可)

聞く	読む	書く	話す
<p>(1) 音声を2回聞いて、場面にあった絵を選ぶ。 (Exercice1-3)</p> <p>(2) 音声を2回聞いて、時間、値段、電話番号、日付について正しいものを4つの中から選ぶ。 (Exercice4)</p>	<p>(1)音声を聞いて、それにあったサイン(禁煙、飲食禁止などの絵)を選ぶ。</p> <p>(2)指示文を読んで、携帯の画面のメッセージと合うものを選ぶ。</p> <p>(3)メッセージを読んで、質問文の回答(絵)を選ぶ。</p> <p>(4) 文の説明(生年月日、値段、時間、身長など)を読んで該当する絵や数字を選ぶ。</p> <p>(5)短いメッセージを読んで、その状況を示す絵を選ぶ</p>	<p>(1)音声を聞いて日付、時間、電話番号などを書く。</p> <p>(2)滞在許可書の絵から必要な情報(姓名)の情報を探し、書き写す。</p> <p>(3)入国カードに必要な情報(指名、国籍、生年月日、出生地)を書き込む。</p> <p>(4)友人に依頼するための買い物リストを書く。(20字)</p>	<p>(1)店で値段を尋ねる。</p> <p>(2)人や場所を描写する。 ・家族の写真を見て説明する。 ・2枚の絵を比較して違い(ものがあるかないかなど)を説明する。</p> <p>(3) 要求を説明する。 絵や写真見て、その状況での必要なことを説明する(予約を取る、切符の買い方を尋ねるなど)</p> <p>(4)健康の問題を説明する。(場面は絵で提示)</p>

*「聞く」「読む」「書く」: Sujet du candidat au DILF(受験者用試験サンプル)、「話す」:Sujet l'examinateur au DILF(試験官用試験サンプル)参照 13

「聞く」試験







音声を2回聞いて、場面にあった絵を選ぶ。

EXERCICE 1

10 points

Regardez les images. Vous allez entendre 5 messages. Vous entendrez chaque message deux fois. Écoutez et écrivez le numéro du message sous l'image qui correspond.

Exemple : Vous entendez le message : « Message 1 – Attention aux voleurs ! Soyez prudents et faites bien attention à vos affaires ». La bonne réponse est l'image F.

<p>A</p>  <p>Message n° <input type="text"/></p>	<p>B</p>  <p>Message n° <input type="text"/></p>
<p>C</p>  <p>Message n° <input type="text"/></p>	<p>D</p>  <p>Message n° <input type="text"/></p>
<p>E</p>  <p>Message n° <input type="text"/></p>	<p>F</p>  <p>Message n° <input type="text"/> Exemple 1</p>

「読む」試験

指示に関する文を読んで該当する携帯画面を選ぶ

EXERCICE 2






3 points

Voici des instructions pour envoyer des messages avec un téléphone portable. Lisez les instructions. Reliez chaque instruction au téléphone correspondant.

– Aller dans la partie « Messages ».

POUR ENVOYER UN MESSAGE

- 1 **Exemple**
– Aller dans la partie « Messages ».
- 2
– Choisir « Créer Message » dans la liste.
- 3
– Ecrire le message et appuyer sur « Envoyer ».
- 4
– Ecrire le numéro de téléphone du destinataire.
- 5
– Appuyer sur « Valider » pour envoyer le message.

<p>A</p> 
<p>B</p> 
<p>C</p> 
<p>D</p> 
<p>E</p> 

3-4 他の試験との関係

	対象(年齢層)			目的					レベル						
	年少者	中高生	成人	高等教育	職業	移民	国籍取得	滞在許可	A1.1	A1	A2	B1	B2	C1	C2
① DILF			●		●	●			●						
② DELF prim	●								●	●	●				
③ DELF scolaire junior		●		●		●	●	●		●	●	●	●		
④ DELF		●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●		
⑤ DALF		●	●	●	●	●	●	●						●	●

4-1 A1.1レベルの教材

出版年	タイトル (赤字:発表者変更)	備考
2008	Trait d'union - Niveau A1.1 - Cahier d' alphabétisation	
2014	Emsemble- Cours de français pour migrants	自国で識字教育を受けた人向け
2017	Lire et écrire en français: Méthode d' alphabétisation progressive	
2017	MaClé ALPHA - Méthode rapide d' alphabétisation pour adultes	
2019	Bonjour et bienvenue ! - En Français A1.1	
2019	Alphabétisation : vocabulaire illustré: Un cahier de vocabulaire pour adultes grands débutants	
2021	J'apprends à lire et à écrire : Exercices de lecture et d'écriture du français (pour débutants - alphabétisation)	
2022	Apprendre le français pour les Ukrainiens: Les mots les plus importants ukrainien - français	ウクライナ語話者 むけ 17

CAVILAM—Alliance Française の オンラインコース

「ニューカマーの外国人のフランス語学習に寄り添う」

« Accompagner les étrangers primo-arrivants dans leur apprentissage du français »

- ・Vichyにある研究教育拠点CAVILAMが運営するMOOCのコースの一つ
- ・フランス内務省の資金援助を受け開発
- ・受講料無料、受講条件なし
- ・アソシアシオン*でボランティアとしてフランスに来たばかりの外国人にフランス語を教える人などを対象とした基礎トレーニングコース *非営利団体の総称。
- ・コース開講期間は3ヶ月。コースは8-10時間で想定。
- ・6つのモジュールがあり、ビデオクリップ、サイト、参考文献、評価クイズなど、幅広い学習素材が用意されている。
- ・修了者には証明書を発行。ボランティアの活動を支援するネットワークを構築できるオンライン上の共有スペースや修了者のみ参加できるコミュニティスペースを提供

5-2 教師研修の例（1）プログラム

ユニット1	背景とボランティア / 言語教師の役割	<ul style="list-style-type: none">・ニューカマーが関わる関連機関、行政のプロセスを知る・ボランティア / フランス語教師の役割
ユニット2	ニューカマーの出身社会とフランスに関する社会文化的な指標	<ul style="list-style-type: none">・出身国の言語、社会、文化に関する参考情報・フランスの社会参加に必要な社会文化的情報に関する参考資料
ユニット3	ニューカマーにフランス語を教える際の基本的な概念	<ul style="list-style-type: none">・外国語としてのフランス語と母語としてのフランス語の違い・初級レベルの特徴
ユニット4	コース開始前の準備とプログラムの設定	<ul style="list-style-type: none">・最初の授業の準備・ニーズに応じたプログラム設計・教室運営の方法
ユニット5	「聞く・話す」に関する授業活動開発のための実践的なヒント	<ul style="list-style-type: none">・フランス語の発音とイントネーションの導入・口頭の授業活動の授業の準備と実践
ユニット6	「読む・書く」に関する授業活動開発のための実践的なヒント	<ul style="list-style-type: none">・読み書きの学習を始める際の支援・「読む・書く」に関する授業活動の授業の準備と実践

5-2 教師研修の例（2）

France Eduacion Internationa の オンラインコース

「DILF 試験官・採点者養成コース」 « Devenir examinateur-correcteur du DILF »

- ・実施機関：**DILF等を開発した機関**(前身はCIEP)が実施する教師研修の一つ
- ・対象：**FLE**(外国語としてのフランス語)の教師、**ALPHA**(母語で識字教育を受けていない人)や 移民向けのフランス語教育の担当者→**フランス語教育経験者**
- ・応募要件：**外国語としてのフランス語の学位(学士、修士)**、または**全くの初心者**にフランス語を教えた経験があること。**DILF試験センターの責任者の承認**が得られていること。
- ・2022年は2期開講。受講期間は2-3週間
- ・内容：**DILF試験のシステムと試験官/補正官の役割**、**CEFRの基礎知識**、**筆記試験と口頭試験の実施方法**など
- ・7つのモジュール(6時間)+テスト(1時間)

6. まとめ(1)

移民を取り巻く社会的な状況の変化、政治的な要請



- ①A1.1 レベルのRéférentielの開発：CEFRのフランス語教育への文脈化
- ②DILF(A1.1レベルの試験)の開発と普及
- ③従来の試験、他の試験と関連づけの整理
- ④教材の開発
- ⑤教師養成・試験官養成

6. まとめ(2)日本語教育参照枠との関連から

1. 社会統合という文脈の中での言語教育の役割と施策
2. RLDの開発と試験、教材、研修の連関
3. 文字教育への配慮
4. 生涯学習の観点

留意点

- ①文脈の違い: 移民の割合や数、国籍取得等との関係、自国で教育を受けていない移民
- ②言語的な違い

Council of Europe, The CEFR levels (*例示的能力記述文の一覧(excel)ダウンロード可)

<https://www.coe.int/en/web/common-european-framework-reference-languages/level-descriptions>

France Éducation internationale (*DILFやDILF試験官・採点者養成の研修の情報、試験問題ダウンロード可)

<https://www.france-education-international.fr/diplome/dilf/exemples-sujets?langue=fr>

CAVILAM – Alliance Française (*ニューカマーのためのフランス語教育関係者のための教師研修など)

<https://www.cavilam.com/mooc-primo-arrivants/>

- ・自治体国際化協会パリ事務所(2021)『フランスの地方自治体における社会統合政策』
<https://www.clairparis.org/images/pdf/research/clairreport/shakaitougou-ikeda-report.pdf>
- ・吉島茂ほか訳・編(2014)『外国語教育II 外国語の学習、教授、評価のための ヨーロッパ共通参照枠
Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment』朝日出版社
- ・Conseil de l' Europe(2021) *CADRE EUROPÉEN COMMUN DE RÉFÉRENCE POUR LES LANG APPRENDRE, ENSEIGNER, ÉVALUER*
<https://rm.coe.int/cadre-europeen-commun-de-reference-pour-les-langues-apprendre-enseigne/1680a4e270>
- ・Beacco J.-C., de Ferrari M., Lhote G. & Tagliante C. (2005) : *Niveau A1.1 pour le français :Référentiel et Certification pour les premiers acquis en français*, Didier
- ・Tagliante C & Dupleix D (2009) : *Réussir le DILF A1.1*, Didier